

文教福祉常任委員会活動報告

当委員会では、1月22日から23日にかけて埼玉県に伺い、滑川町の子ども子育て支援策や、川越市の歴史と文化財を活用した取り組みについて行政視察を行いました。

滑川町は、沿線開発の影響もあるとはいえ、人口（令和7年3月1日現在19,745人）と子どもの数が増加し続けている稀有な自治体です。親と地域がともに子育てを行う町を目指して、近年漸く採用されてきたこども医療費無料化と給食費の無償化を平成23年には実施していました。町に決して潤沢な財源があるわけではなく、負担も年々増加しているものの、結果として町外へのアピールに繋がり、必要な子育て支援を続けることで結果を出してきたその先進性と独自性に驚きました。

川越市では令和6年4月に開業した市直営の文化創造インキュベーション施設「コエトコ」を訪れ、歴史と共存する街並みやリノベーションされた有形文化財を見学し、そこを拠点として行われる創業支援と地域振興策について説明を受けました。

文化と歴史に学び、活眼を開いて後世を先見する。土地は違えど新たな価値と仕事を生み出し、創造を助ける行政の取り組みと覚悟から、本市も目を背けてはならないと感じました。

文教福祉常任委員会 委員長 荒井浩二



「コエトコ」の展示について説明を受ける委員